

第13回南漣会合唱団演奏会

Male Choir NANREIKAI

南漣会合唱団

事務局所在地

〒631-0041 奈良市登美ヶ丘5-4-5

扇田 豊方

TEL/FAX 0742-41-4268

E-mail yogita@kcn.ne.jp

2001.11.11(日) PM2:00

大手前 ドーンセンター ホール



JOYFUL CONCERT 2001.11.3 ザ・シンフォニーホール

ご挨拶

本日の演奏会によるご声援をありがとうございました。まことにありがとうございます。

この演奏会も、ここ数年、隔年開催が出来るまでになりました。これもひとえに、皆様の暖かいご支援のたまものと、心から感謝いたしております。

今回は、《女声合唱団セシリア》が初めて賛助出演していただきます。また、私たちのきょうだい団体の《みおぎ会》（どちらが兄か姉か別にして）も賛助出演に駆けつけてくれました。両団体の共演は、素晴らしい彩りを添えてくれることでしょう。両合唱団に感謝とお礼を申し上げます。南濤会合唱団は、大阪市立大学（旧制大阪商大）グリークラブのOB団体である南濤会が母体です。それを広く一般の方にも呼びかけ、優秀な団員の加入により、今日の成長を見ることができました。ただ、若い方の参加が難しく、高齢化は避けられないのが現状です。

私たちは、高齢化による衰えを補い、一段でも階段を登ろう、さらに良い音楽を追究しようと、外部の識者・先生方を指導者として仰ぎ、合唱技術の向上だけでなく、合唱の中身に新鮮さと活力を培うべく努めて参りました。最初は金丸七郎先生と栗田清隆先生に6年間の御指導を仰ぎ、今年はじめから森啓一先生に御指導をお願いしております。そのお陰でしょうか、練習そのものでは、同好会的な雰囲気よりも、合唱音楽の楽しさを追求し、かつ、音楽の内容を高めていく空気が高まりつつあります。

本日の演奏にその成果の一端を披露できますかと思っておりますが、お聴きの上ご批判下されば幸甚でございます。

団員一同、本日の演奏を懸命に努めますが、まずは、合唱を楽しんでいただければ、これにまさることはございません。

ご来聴、ご声援に感謝し、今後、なお一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成13年11月11日

南 濤 会 合 唱 団

メッセージ

大阪市長 磯村 隆文



第13回南濤会合唱団演奏会が盛大に開催されましたことを心からお喜び申し上げます。

南濤会合唱団は大阪市立大学グリークラブOBを中心に結成され、団員の皆様には、社会の第一線で活躍されている多忙な中で、情熱をもって合唱活動が続けられ、親睦と交流を深めておられます。その日頃の練習の成果を披露される本演奏会が、回を重ねて一層充実し、素晴らしい歌声でご来場の方々を魅了しておられますことは誠に同慶に存じます。生活にゆとりとおいが求められる今日、音楽を通じて人々が心安らぐひとときをもつことは誠に意義深く、皆様のご熱意とご努力に深く敬意を表します。

大阪市では、歴史と伝統を生かし、市民が文化や芸術に親しみ、創造できる環境づくりに努めるとともに、ひとが輝く「生活魅力都市」、まちが華やぐ「国際集客都市」の実現をめざして、積極的に市政を推進しておりますので、皆様方のさらなるお力添えをお願い申し上げます。

本日の演奏会が大きな成功を収められますよう、また、南濤会合唱団のご発展と皆様方のますますのご活躍を心からお祈り申しあげまして、お祝いのことばといたします。

ANCORの会本年度代表幹事

六甲男声合唱団 代表 山本 稔

濤会合唱団台13回定期演奏会おめでとうでございます。

南濤会合唱団と私ども六甲男声合唱団とは、「ANCORの会」という五つの大学OB合唱団の会で、既に21回の演奏会をご一緒させて頂きました。

ANCORの会のメンバー各団とも高齢化が一段と進み、皆さん夫々に新しい世代の団員を迎え入れるべく苦慮されておられるようですが、その中で、南濤会の皆様は二十数年間に亘って定期演奏会を続けておられる事は誠に素晴らしいことであり、ANCORの会の仲間の一員として大変心強く、心からお喜び申し上げます。

この二十数年のお付き合いで、南濤会合唱団には人生の達人が多くいらっしゃる…と兼ねがね感銘を受けていました。本日の演奏会にしてもその達人ぶりが遺憾なく発揮され、指揮者に、曲目に、ステージの構成に、おのずから大きな興味を予感させるものとなっています。我々も南濤会合唱団をお手本として、個性ある合唱団を作り上げてゆく積もりです。

我々六甲男声合唱団（神戸大学OBが中心）も来春には一橋大学OB合唱団であるマーキュリーグリークラブと神戸で第一回の合同演奏会を持つことになっています。やがては、その会に、大阪市立大学OBが中心となっておられる南濤会合唱団にも加わっていただき、現役グリークラブによる三商大演奏会が今年で中断されることになった後をうけて、OBによる三商大演奏会を実現できればと思っております。

折しも、米国に於ける同時多発テロの発生は平和な世界がどれほど大切かを改めて強く思い知らされました。世界の平和を念じつつ、人生を豊かに生きるために、これからも互いに励まし合って歌い続けようではありませんか。

PROGRAMME

STAGE 1

フィンランドの合唱曲

指揮: 森 啓一

JEAN SIBELIUS (ヤン・シベリウス) 作曲

Finlandia Hymni

フィンランディア賛歌

TOIVO KUULA (トイヴォ・クウラ) 「男声合唱曲集」から

Metsän Kuninkaalle

森の王

Kesäkuva

夏の情景

Iltatunnelma

夕べの情景

Vapauden Laulu

自由の歌

STAGE 2

SPIRITUALS

指揮: 小関 光男

Deep River

R. Ringwald 編曲

Were You There?

J. Erb 編曲

The Battle of Jericho

M. Bartholomew 編曲

Nobody Knows de Trouble I See

L. de Paur 編曲

Swing Low Sweet Chariot

L. de Paur 編曲

Let My People Go

T. Scott 編曲

STAGE 3

[みおぎ会]

女声合唱とピアノのための「映像 1」より

指揮: 松平 季子

第5曲 「風に寄せて その1」

ピアノ: 岡本佐紀子

立原 道造 作詩

尾形 敏幸 作曲

[女声合唱団セシリア]

指揮: 森 啓一

Memento, slutis auctor

心にお留め下さい, 救い主よ

Willam Byrd 作曲

Laudi alla vergine Maria

聖母マリアの賛歌

Giuseppe Verdi 作曲

----- INTERMISSION -----

STAGE 4

男声合唱曲「島よ」

指揮: 森 啓一

伊藤 海彦 作詩

ピアノ: 藤澤 篤子

大中 恩 作曲

福永陽一郎 編曲

STAGE 5

Sancta Maria, mater Dei

合同演奏

指揮: 森 啓一

Wolfgang Amadeus Mozart 作曲

ピアノ: 藤澤 篤子

曲目解説

フィンランドの合唱曲

フィンランディア賛歌

フィンランドは、13世紀後半から19世紀初頭までスウェーデンの支配下にあり、次いで第一次世界大戦終了近くまで、ロシアの支配下にあったが、20世紀初頭ニコライ2世は、フィンランドのロシア化促進のため、さまざまな強圧政策を行った。反面これはフィンランドの愛国、独立運動を煽る結果となり、この運動の一環として1899年シベリウスは活人画劇の第6景「フィンランドは目覚める」に音楽をつけ、これが後に独立して「フィンランディア」の名の下に知られる交響詩となった。後に中間部にある民謡風の旋律にコスケンニエミという詩人が詞をはめ込んだのが、合唱用の《フィンランディア賛歌》である。

「夜の闇の脅威が去り、夜が明けた、祖国の朝が始まったのだ」と歌う。

TOIVO KUULA 男声合唱曲集より

トイヴォ・クウラ(1883~1918)は、フィンランドの作曲家兼指揮者であり、シベリウス以降に現れた最も才能に溢れる音楽家の一人といわれる。ヘルシンキ音楽院に学び、卒業後、ボローニア、ライプツィヒ、ベルリン、パリに留学した。フィンランドの民族的叙事詩「カレワラ」にもとづく「奴隷の息子」や、フランクの影響を受けた作品として知られるピアノ三重奏曲などの器楽作品と、声楽・合唱曲を残した。同時代のナデトーヤ、パルムグレン等とともにフィンランド・ロマン主義の作風を見せるものもあるが、それを超えた新しい感性をうかがわせている事も見逃せない。フィンランド市民戦争のさなか何者かに銃で撃たれ、僅か35歳にしてその才能は途絶えた。

Metsän Kuninkaalle (森の王) は、狩猟の収穫の多かれと森の王に祈る歌。

Kesäkuva (夏の情景) は、白夜の夏の男女の情景を、鳥の鳴き声に絡めて歌う。

Iltatunnelma (夕べの情景) は、宵闇の迫る静かなひと時の情景を歌う。

Vapauden Laulu (自由の歌) は、「カレワラ」を題材とし、敵対するボホヨラを攻め、城壁が崩れ勝利する様を歌う。フィンランディアとともに民族解放の歌としても歌われている。

SPIRITUALS

黒人霊歌はその名の通り「魂の叫び」を歌ったものである。黒人が奴隷として虐げられた生活の中でイエス・キリストを崇拝し一日も早く解放されることを祈り続ける姿は、今歌い継がれている歌の中に生き続けている。

Deep River (深い河) はヨルダンの彼方、総てが平穏な「ふるさと」を求めて行きたいと歌う。

Were You There? (汝はそこに?) は、「主が十字架に磔にされた時、お前はそこにいたか、私は思っただけでも身がふるえる思いがする」と信仰心の強さを歌っている。

The Battle of Jericho (ジェリコの戦い) は、パレスチナの古都ジェリコの戦いにおけるヨシュア(預言者モーゼの後継者)を黒人の英雄として、その激しいリズムの中に歌う。

Swing Low Sweet Chariot (揺れる幌馬車) では、「おゝ、緩やかに揺れよ、心地よき馬車よ」と我が身を天国に運んでくれる心の平穏を祈る。

Nobody Knows de Trouble I See (誰も知らない私の悩み) は、「イエスだけが私の悩みを知っている」と神への信仰と賛美を歌う。

Let My People Go (行けモーゼ) では、嘆きの荒野と化したこの世からの解脱を望み、モーゼへの神の啓示を「エジプトの地に行き、我が民を解放せよ」と歌う。

曲目解説

女声合唱とピアノのための「映像 1」より

「風に寄せて その1」この作品は既にある混声合唱版がオリジナルで、1983年女声編曲版として書かれたものです。清冽な水の流れるようにピアノの響きのうたう女声コーラスのひびきが道造の抒情世界の心象風景を映しています。

男声合唱曲「島よ」

この曲は、伊藤海彦の詩に1970年9月に混声合唱曲として書かれ、作曲家自身の指揮により初演されて、芸術祭優秀賞を得た作品です。

作曲者大中原は、こう言っています。『人間の、とくに私たち「男」の宿命を全て担っているかのように見える「島」をうたいあげることは、むづかしい事ではありましたが、大変書き甲斐のあることでもありました。』

今日歌うのは、福永陽一郎が男声合唱曲に編曲したものです。この詩は六つの章で構成されていて、その詩は以下のような内容で「島よ お前は 私ではないのか」で締めくくられるまさに、男の宿命を島にたとえたものです。

- ・ 碧い日々に取り巻かれ、時の波に洗われて、翼も鱗もなく孤独にただ一人耐える。
- ・ 波の言葉に誘われ、ある日ふと、魚のように漂う事を夢見るが何処にも行けない現実を、なぜ?なぜ?と問いかけ、一人で生きるしかない。
- ・ 数知れぬ昼と夜、雨に打たれ、岩と土、夢と砂を、そがれ、けずられる我が身の悲しみと苛立ち。
- ・ 遠い昔の、母なるマグマから生れた我が身を思い、新たな蘇生を。
- ・ 煩悩から解放され、深い夜の向うからやって来る見知らぬ一日が始まる、その気配を感じる、悟りの境地。
- ・ 逃れようも無く孤独な、心の中の虚ろな海に浮かぶ島よ、散り散りの、人という名の儂い島よ。

Sancta Maria, mater Dei

聖なるマリア、神の母よ、選ばれし守りの聖女、救いの人である貴方に我が全身全霊をもって帰依致します。

そして、今この時から、我が身をあなたに捧げ、あなたに対する永久の尊敬と敬慕を心の中に抱き、心無き言動を受けようとも、決して捨て去る事も、また揺らぐこともありません。

聖マリア、信心深い私があなたの足下に膝まづくことをお許し下さり、生けるときにはご守護を、死者の審判のときにはご擁護ください。

アーメン。

南濤会合唱団

南濤会合唱団の母体である「南濤会」は、1940年(昭和15年)に設立されました。この年は、紀元2600年を祝う各種の行事があり、旧制大阪商科大学グリークラブでもこれを記念して、南濤会初の演奏会が大阪ガスビルホールで開催されました。当初は、現役部員とOBとが定期的に演奏会をもつことを目標にして活動するという趣旨であったと伝えられています。

「南濤会」の名称は、大学が大阪市の南部に位置し、市章の「濤」=「濤標(みおつくし)」から採られたものです。

大阪商科大学グリークラブのOBと現役とが合体して発足した南濤会ですが、戦中・戦後の混乱期であったためか、活動の機会が少なくなり、戦後は主としてOBが物心両面で現役グリークラブを援助するという形態に変わってグリークラブのOB組織として定着し、今日に至っています。合唱団としての活動が始められたのは、新制第1期生が卒業した1953年(昭和28年)で、以降、現役グリークラブの定期演奏会にOBの有志が合同や単独ステージに立ち、1964年(昭和39年)に第2回の演奏会が日立サルーンホールで開かれ、また定例のサロンの集まりなどを通じて、男声合唱の灯がともし続けられました。

その後、1980年(昭和55年)に母校が創立100周年を迎えるのを契機に、その前年、南濤会組織の結束を図る機運が持ち上がり、それを母体とする「南濤会合唱団」が再編されました。1980年(昭和55年)3月8日、十数年ぶりに演奏会を復活させ、それ以来、継続的に活動を続け、定期演奏会を隔年毎に開催しています。そのほか定例の行事としては、1981年(昭和56年)から毎年開かれている「五つのOB男声合唱の集い」(京都大学、大阪市立大学、東京大学、大阪大学、神戸大学の各OBを中心とする五つの男声合唱団で構成され、各団名の頭文字をとった「ANCORの会」が主催)に出演、その他友好団体のステージへの賛助出演などがあります。

大学のOB合唱団の悩みは、仕事や家庭の事情でメンバーの定着が不確実で、満足できる状態には程遠いもどかしさがあります。そうした危機を克服するため、8年程前から男声合唱を愛好する一般の方々にも広く参加を呼びかけ、また、それに呼応して昔取った杵柄の旧友に誘いをかけるなどしてメンバーの拡充を図ってきました。そしてこれまで客演指揮者を除いて伝統的に団の指揮者で歌ってまいりましたが、1995年(平成7年)から関西二期会のバリトン歌手金丸七郎氏を指揮者としてお迎えし、発声法、詩の発音、曲の解釈、歌唱表現など合唱技術全般にわたって指導を受けてきました。そして、本年1月から関西合唱連盟理事のほか数多くの団体でご活躍され、大阪放送合唱団のほか関西では多くの合唱団指揮を務めておられる森啓一氏をお迎えして合唱のクオリティーを高めるべく励んでおります。

最近、合唱団の海外遠征が盛んですが、南濤会合唱団も1997年7月、融資メンバー十数人がモナコ公国で行われた「日本文化フェスティバル」に参加してステージをもったのに続き、1999年(平成11年)6月下旬に36人のメンバーが、大阪・上海友好都市締結25周年記念式典に出席、その宿がレセプションで演奏し、また、上海市同済大学教職員合唱団との交流演奏会を開催し、成功を収めました。近い将来に、また、海外演奏の企画検討に入ろうと思っています。

今年は、大阪市立大学グリークラブが1951年(昭和26年)に夏休みを利用して、合宿を兼ねた演奏旅行に信州上田市始めて訪れて以来ちょうど50周年になるのを機に、当時、共にコンサートを開催した上田市の「からたち合唱団」とジョイントコンサートを開催しました。現役時代に参加した人たちには、とても懐かしく感慨深いものがありました。

みおぎ会

みおぎ会は、1967年(昭和42年)まで大阪市立大学で活躍していた女声合唱団を母体としたOGグループです。現役クラブは今では存在しませんが、もう30年以上も前に、共に歌ったクラブでの信頼関係は何十年経っても心地よく、忙しさの中から何とか時間をさいて、今もなお歌い続けています。

1982年(昭和57年)から、喜歌劇楽友協会のプリマドンナ松平季子先生を指揮者にお迎えし、特にハーモニーを大切に声作りに励んできました。そして岡本佐紀子さくの表情豊かな音色のピアノ伴奏で、練習を楽しく実りある気分させていただいています。

「みおぎ会」の名称は、南濤会と同じく、大阪市の「みおつくし」に因んで「濤木(みおぎ)」と名付けたものですが、市大OGのメンバーに限らず、一緒に歌ってくださる方々も心からお迎えし、より美しいハーモニーを響かせたいと願っています。同好の皆様! どうぞお気軽にご入会ください。

◎ これまでの主な行事

1987年(昭和62年)11月23日 第1回リサイタル(大阪倶楽部)

1989年(平成元年)8月 シンガポールへ演奏旅行

1992年(平成4年)6月13日 第2回リサイタル(大阪倶楽部)

1998年(平成10年)6月27日 第3回リサイタル(守口文化センター・エナジーホール)

目下、創立50周年記念リサイタル(2002年7月7日)をめざして練習に励んでいます。

女声合唱団「セシリア」

1976年(昭和51年)甲南女子高校卒業生16人で発足。一般の合唱経験者からも入団者を得て、メンバーの充実をはかり、翌年には第一回定期演奏会を開催した。以来毎年定期演奏会を行い、精緻なアンサンブルと音楽性の豊かさで評価を高めてきた。

創設以来、一貫して森啓一が指導にあたり、その間に関屋晋氏、平田勝氏などの客演で演奏した。定期演奏会の混声のプログラム演奏には、関西学院グリークラブ、京都大学グリークラブ。また、近年は毎年のようにコールシャンテの共演を得て、「聖ニコラス」(ブリテン)、「レクイエム」(モーツァルト)、「メサイア」(ヘンデル)そして、南濤会からも協力を得た、「モーゼ」(ブルッフ)などで好評を博した。

80年代に関西代表として全日本合唱コンクールに出場し、90年春にはハンガリー ブダペストとペーチュの合唱フェスティバルに参加した。関屋氏の指導する女声合唱団「渚」やコール高森とは、神戸と東京で交互に演奏会を行うなど活発な交流がある。

この一兩年、学生のメンバーが加わり始め、新しい時代の合唱をめざして4半世紀の歴史をさらに塗り替える力を注入しつつある。

プロフィール

指揮者 森 啓一

1937年生まれ大阪学芸(現大阪教育)大学特設音楽課程卒業。同専攻科修了。作曲理論および指揮法を山県茂太郎、クラウス・プリングスハイム、ニコラ・ルッチ、フーベルト・フランクに師事。NHK 大阪放送管弦楽団、同放送合唱団を指揮してラジオ出演。住友生命合唱団、グリーンエコー、福知山フロイデ、南漣会合唱団などを指揮。甲南女子中高等学校で教鞭をとる傍ら、同コーラス部を指導。1979年から甲南女子高校コーラス部を率いてヨーロッパ合唱フェスティバル(ヨーロッパカンタータ)に連続参加。女声合唱団セシリアの常任指揮者として創立以来一貫して指導にあたり、コールシャントにも度々客演。兵庫県合唱連盟副理事長、関西合唱連盟理事、兵庫県合唱指揮者協会理事長、世界合唱連盟会員、ヨーロッパカンタータ会員、コダーイ協会国際会員。

ピアニスト 藤澤 篤子

相愛女子大学(現相愛大学)音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。武田邦夫、井口基成、志賀宗三郎各氏に師事。4台のピアノコンツェルト(バッハ)、デュオコンサートなどに出演の他、数多くの声楽家・合唱団とリサイタル、コンクール、CD録音等で共演。在学中より多くの合唱団のピアニストとして活躍し現在は、日本各地で活躍している。
1994年度長井賞受賞。

指揮者 松平 季子

大阪音楽大学音楽部声楽科卒業。同専攻科修了。斉木幸子、木村絹子の両氏に師事。ミュンヘンに留学、ローレ・フィッシャー氏、ローマでC.D.ジャコモ氏に師事。J.シュトラウス『こうもり』のロザリンデ役でオペレッタにデビュー。『メリー・ウィドウ』のハンナ、『ジプシー男爵』のザッフィ、『マリツァ伯爵夫人』のマリツァなど多くのオペレッタのヒロインを演じその歌唱・演技は高い評価を受ける。海外でもパリ、モンテリオール、ニューヨーク等で公演の音楽劇にソリストとして招かれ、ドイツ、オーストリア、ベルギー、ロンドンなどではコンサートに出演する。
1982年よりみおぎ会の指揮者として指導を続け多くのリサイタル、コンサートを成功に導いた。
日本演奏連盟会員、喜歌劇楽友協会理事

ピアニスト 岡本 佐紀子

大阪音楽大学音楽部ピアノ科卒業。同専攻科修了。永井淳子氏に師事。
関西フィルハーモニーとピアノコンチェルトを協演のほかソロ・コンサート、ジョイント・コンサートを開催。1995年ブラジル・パラナ州ロンドリーナ市で行われた国際音楽フェスティバルに参加。同州マリンガ市で日伯修好100周年記念コンサートに出演。1998年9月から1年間、文化庁芸術家在外研修員として留学、ローマ歌劇場首席コレペチワールスティヴン・ローチ氏に師事。
現在、関西では数少ないコレペチワールとして大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス、びわ湖ホール、関西歌劇団で活躍し、著名な指揮者・歌手から信頼を得ている。

南漣会合唱団 メンバー

First Tenor

石田 等
尾崎 納
斎藤 三朗
新 栄一郎
樽井 芳男
樽本 義信
中島 圭意
福屋 伸治
南本 豊樹

Second Tenor

今西 弘一
大田 徳隆
川口 浩
久野 利夫
平 伸彦
戸田 勝
服部 栄治
藤田 徹夫
松村 和久男
森谷 泰明

Baritone

石井 欽三
石川 健夫
上田 稔
黒岩 勝彦
田中 利治
谷岡 昇
田村 純朗
中川 静雄
広岡 幸一
細谷 清澄
西田 博光
山内 荘作
米田 直也

Bass

上木 喜昌
扇田 豊
桂 貞夫
小関 光男
下伊豆哲央
寺前 芳博
中島 泰典
三栖 隆
宮田 潤
森田 清
安井 永
山縣 一晃
和田 昭夫

南漣会合唱団 運営・技術スタッフ

団長	上田 稔	総括指導・指揮者	森 啓一
幹事長	宮田 潤		
運営幹事		技術幹事	
総務	斎藤 三朗	指揮者	小関 光男
	扇田 豊	副指揮者	石川 健夫
渉外(ANCOR)	中島 泰典	パートリーダー	T1 石田 等
	和田 昭夫		T2 服部 栄治
会計	上木 喜昌		B1 谷岡 昇
会計監査	中川 静雄		B2 寺前 芳博
相談役	藤田 徹夫	インスペクター	谷岡 昇
		ピアノ	石幸 千照